

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0570214304		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホーム つなぎの里 【ぱんだ】		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	平成22年7月8日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成22年7月30日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

<p>畑作りを、利用者と共に苗植えから行い、収穫の喜びを分かち合ったり、収穫した作物を活用したメニュー作りに取り組んでいる。また、併設されている他事業所 (ショートステイ) と利用者同士の交流を図っている。</p>

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

<p>当ホームは2ユニットで、同一敷地内にショートステイの事業所があり、日常的な交流や緊急時の連携等がすぐ取れる状況にある。広々とした敷地内には、地域の方が毎年盆踊りを見せてくれる芝生や、利用者や職員が収穫を楽しみに日々手をかけている畑などがあり、生活が建物内に限定されないように支援している。また、ホームの中は全館バリアフリーとなっており、清潔で親しみやすい造りである。廊下にはたくさんの写真が飾られ、日頃の活動風景や楽しかった行事の様子などを垣間見ることができ、利用者本位の支援を行っている状況が確認できた。理念にある「自由 絆 笑顔」が体感できる温かいホームである。</p>
--

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-)+ (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由 絆 笑顔という理念を掲げ日々取り組んでいる。人と人とのつながりを大切にする楽しい里であるよう職員一同努めている。	ホームの発足当時、職員全員で決めたという「自由 絆 笑顔」の理念は、職員が常に意識できるようホームの随所に掲げられている。訪問当日は、職員はもちろん多くの利用者の自然な笑顔にふれることができ、理念に基づいた支援が行われていることを実感した。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等への参加の機会を作り、盆踊りなどは毎年ホームへ来ていただき、見せていただいている。	地域行事の町のお祭りや公民館で開かれる敬老会などに、積極的に参加している。また地域の方々がホームで盆踊りを披露してくれたり、理念にある地域との「絆」、人との「絆」を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民からの相談や問い合わせがあった際は、その都度対応している。また運営推進会議をいかし、地域の方にホームを理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、ホームの状況報告などを行い、意見などスタッフミーティングの際報告、話し合いをし、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は、二ツ井町福祉保健課職員、地区の会長、民生委員、家族会等の参加を得て、定期的に開催されている。会議の中で提案された、緊急時の避難方法や、同一敷地内の事業所との連携について、取り組みが行われている。	平成22年度は、運営推進会議を2ヶ月に1度行う予定である。今後も、更なるサービス向上に向けた会議の開催、活用が期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議へ参加し、市の職員や他事業所の方たちと話し合いを行なっている。(月1回の会議の開催があり、なるべく参加するようにしている)	月1回開催の地域包括支援センター主催「地域ケア会議」に参加して、事業所の報告や災害対策等について話し合いを行っている。また市の職員とは、介護保険の更新時や生活保護の相談などで、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	説明し、納得できない場合は、スタッフ付き添いの元外出していただいたり、工夫しケアに取り組んでいる。	身体拘束対応マニュアルがあり、職員は、帰宅願望の強い利用者の方には、玄関まであるいはホームの外まで付き添い、身体拘束をしない対応や支援に努めている。医療上の理由等で止むを得ず身体拘束をする場合は、家族の同意を得るなどマニュアルに沿った対応をすることとしている。	マニュアルの読み合わせや、事件として出てきた全国の事例等の分析、権利擁護の研修参加等、今後は身体拘束についての職員研修に取り組んでいくことが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業について、現在3名の方が利用しており、必要な方には活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族などの不安や疑問点をたずね、十分な説明を行い理解・納得していただけるよう努めている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や苦情などがあつた際は、職員間で話し合ったり、地域ケア会議で他機関より助言を受け、運営反映に努めている。	苦情の相談窓口や公的機関を重要事項説明書等で明示しており、玄関には苦情箱も設置している。また家族からの要望等は、ケアプラン更新時に聞くよう努めている。	苦情は1件もないが、家族はなかなか事業所に伝えにくいということも常に考慮しながら、利用者及びご家族からの意見を引き出せるよう、さりげない働きかけを行うことも期待される。
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を出し合ったり、個別での面談などを行なっている。	毎月開催されているミーティングは、報告事項の伝達や職員の意見を出し合う場としている。また年に1回、社長と職員の意見交換の機会が設けられており、困っていることや仕事の提案などが話されている。	ミーティングの議事録から、報告事項の伝達や研修報告等が良く行われていることが確認できた。今後は、利用者等の変化に応じた説明、職員からの提案や職員間のディスカッションが、より活発に行われることも期待される。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談において個々の取り組みの支援をしていたが、現在はなかなか実施できずにいる。管理者が、労働時間・勤務状況などを報告しており、必要時環境の整備を行なってもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や協会などの研修へ計画的に参加し、スキルアップに努めている。研修広告をミーティングにて行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、情報交換や研修会に参加してサービスの向上を高める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し合う時間を設け、良く話を聞き、家族より情報を聞いたり、入居者同士の会話の中からも情報が得られるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時など家族と話す場を設け、電話や面会時などいつでも相談できるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食事作りをしたり、同じテーブルで一緒に食事をしたりし、食後も会話を楽しむなどしている。職員と作業を行なっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月新聞を発行している。支払い時などを通して面会の場を作ったり、家族とコミュニケーションをとり、情報を得ている。		
20	⑧)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きつけの理髪店を継続して利用できるようにしたり、入居後に顔見知りの利用者や接する機会を作っている。	ホームには、利用者の友人や近所の人、身内の方等が気軽に訪ねてきてくれている。また入居前の馴染みの理髪店を継続して利用できるよう支援したり、自宅までドライブをしてとても喜ばれている等、入居前のつながりを絶やさない努力をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作業していただいたり、スタッフが中に入って、会話を促したりしながら利用者同士が関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、関わりを必要とする方に対しては、継続した関わりを支援できるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の暮らし方や思いを日常の会話や直接聞くことにより、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位、家族からの話を取り入れ、その人らしい暮らしができるよう検討している。	日常のケアの中で職員が気付いたことや、ご本人が何気なく発した言葉等から、利用者の思いを汲み取ることに努めている。また、私の基本情報シート(アセスメント票)は、ご家族に記入していただいている。そのことで、ご家族の新たな気付きや発見につながるうえ、職員が利用者の情報をこと細かく知ることができ、日々の支援に役立っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時、アセスメント記入を基にし、生活歴やこれまでの経過などの把握に努めている。また家族からの情報を元にして		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、カンファレンスなどで、一人ひとりの現状を確認し合い把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望等を取り入れた上で、職員全員の意見を反映しながら、介護計画を作成している。	介護計画は、事前に利用者、ご家族から要望・意見を充分に聞き、ケアカンファレンス時に職員が意見やアイデアを出し合い、立案・作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践をし、良い部分は継続し、改善が必要な時は、話し合いの機会をもち、介護計画に取り入れている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする	その時々々の要望に応じるよう努め、困難な時は、他の事業所に相談するなど支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、ボランティアの方や保育園の方々に来ていただき支援している。避難訓練や救命講習など消防と連携を取ったり医療機関ともすぐに連絡を取れる体制を整えている。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望している病院へ受診・住診し医師と連絡を密にし適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が、入居前のかかりつけ医に受診している。また受診後の結果について、家族に電話で報告し、情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院関係者や家族と密に連絡をとり、情報交換や相談に努めている。またそうした場合に備えて病院関係者との関係作りを大切にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員や地域の医療機関に相談し、日常の健康状態や管理、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備えて、かかりつけ医や家族・スタッフで話し合いをし、支援に取り組んでいる。	家族から、住み慣れたホームで終末期を過ごさせたいと希望があり、看取りをおこなったケースが1件あった。その際、看取りの方針、及び医療行為は行うことができないこと等を説明し、同意を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考にミーティングや申し送りの際話し合い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、地域の方に協力をお願いしたり、避難訓練を行なっている。地震や水害など全職員が避難方法を身につけるため、ミーティングの際、話し合いを行ない、地域協力体制を築いている。	避難訓練は、夜間想定等で年2回実施している。この他にも、防火管理者の講習に参加したり、職員の消火器使用訓練を行い緊急時に備えている。また運営推進会議の折、地域の方として地区会長の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。	家庭的な雰囲気の中で、また馴れ馴れしくならない範囲で、どの職員も自然な言葉かけができていた。職員の笑顔と明るい対応が、ホームを温かいものにしている。	今後も引き続き適切なサービスを提供していくため、利用者のプライバシー尊重について、日頃の支援の振り返りの機会を設けたり、研修に参加するなどの取り組みを行っていくことも期待される。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが、自然な形で、持てる力を発揮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自由に、自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	行きつけの床屋のある方は、送迎など支援を行なっている。困難な方には訪問の美容院を利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方とは、一緒に食事作りや盛り付けを行なっている。	職員がバランスの良いメニューを考え、同一法人内の栄養士が毎月チェックしている。また、可能な方は食事作りや茶碗・コップ拭きなどを通じて、役割を持って活動に参加する喜びを感じてもらうなど、支援が一方通行にならないよう工夫されていた。また、職員は利用者個々の好き嫌いを把握し、メニューを別のものに変えたりして、無理強いない食事の提供に努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表への記入で、状況把握ができており、利用者一人ひとりに合わせ、調理方法や好みの飲み物などを提供することで、摂取量の確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄剤の使用、口腔清拭の実施、舌苔ブラシの使用、うがい薬によるうがいなど、毎食後、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記入することで、一人ひとりの排泄パターンを把握している。訴え時や時間を見てトイレ誘導を行なっている。	利用者の方それぞれの排泄パターンについては、詳細な排泄チェック表で把握している。職員は、それをもとに利用者個別の誘導に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の摂取、食物繊維、バナナ、運動量の確保などこの状態に応じて取り込んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態に合わせて入浴できるよう支援している。	入浴は週に何回と決めず、毎日3,4人ずつ行っている。入浴チェック表から、入浴しない日は足浴をして、きめ細かいケアを実施していることが確認できた。また入浴を好まない利用者は全身清拭をしたり、さりげない誘導をして入浴の機会を増やすよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が増えるよう支援している。気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用など理解できていない薬も多い。不安がある際は看護師へ聞くなどし、対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできることで役割を持ち行なっている。季節に合わせた行事や誕生会、外出など気晴らしできるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	日常的な散歩や畑仕事、希望に応じた床屋の利用、受診にあわせた買い物を行なっている。また季節に応じた外出(花見、紅葉狩りなど)支援も行なっている。利用者と家族との外出や地域の行事にも参加するよう努めている。	山の好きな人はミズ採りに出かけたりするほか、外食やドライブ、地区の運動会、餅つき大会などにも出かけている。その時の楽しそうな様子は写真に収められ、ホームの廊下に飾られていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方は、お金を所持している。また買い物を依頼されたときは、スタッフ代行で買い物を行うなどの支援を行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、スタッフが電話をかけ、本人が通話されるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングなどに、行事や日常の様子の写真を貼り、会話の広がりを作るよう工夫している。また季節ごとに、各居室前に花や飾り付けを行なっている。トイレはこまめに換気し、消臭スプレーなどを利用している。	廊下やリビング、トイレ、風呂場等は、こざっぱりと整理され、いやなにおい等もなく居心地の良い共有空間となっている。また全館バリアフリーで、風呂場もきれいに掃除がされており、トイレも広々としている。入り口もドア等を設置し、プライバシーが保たれていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	廊下に円卓と椅子を置き、独りになれる空間を作っている。また気のあった利用者同士、隣に座って過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生日プレゼントの色紙を飾ったり、家族の写真などを貼り、利用者が心地よく過ごせるようにしている。	ダンスとベッドは、ホームが提供している。その他のものは、持ち込み自由である。居室の入り口には、それぞれの方の目印にもなり季節感も感じることのできるよう、素敵な飾りが施されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している。また場所が分かりやすいよう看板を設けたり、できるだけ自立へ向けた生活が送れる様工夫している。		